

科目名 (英文表記)	地域経済・経営 I (プロジェクト・マネジメント) (Regional Economy and Management I)		
科目区分	基礎科目	単位数	2 単位
担当教員名	宇田川 耕一 (非常勤講師)	ナンバリング	MBA_C_EM 5211
研究室番号	なし	研究室電話番号	なし
Eメール・アドレス	udagawa.koichi@i.hokkyodai.ac.jp		
授業の内容及び方法： 次頁以降に記載			
授業の目的と到達目標：			
(目的)			
あらゆるプロジェクトには開始、終了の期限があり、経営学で重要とされる「ヒト」「モノ」「カネ」、つまり「人的資源」「物的資源」「コスト」等の制約が働く。それを受けて、イノベーション（ここでは新たな価値の意味）を創造するプロセスが「プロジェクト・マネジメント」という営みである。			
本授業では、プロジェクト・マネジメントを推進するプロジェクト・マネジャーが身につけるべき以下の5つのスキル（予定）について、文献講読・ディスカッションを通して学ぶ。			
<ol style="list-style-type: none"> 1. チームの育成スキル – ベストセラー『もしドラ』から学ぶ – 2. 組織化のスキル – 組織の本音 – 3. コミュニケーションスキル – 心理学、行動科学等の応用 – 4. 問題解決スキル – 課題設定の力 – 5. リーダーシップ – 経営学の先哲に学ぶ – 			
講師は毎日新聞社で28年間、広告・事業・取材の新聞社業務全般を経験した実務家教員（57歳）である。			
現在は北海道教育大学岩見沢校の芸術・スポーツビジネス専攻教授として「芸術経営学」「芸術・スポーツ産業化論」といった専門科目に加え、「地域活性化プロジェクト」等の地域実践科目を担当している。運営するアートマネジメント音楽研究室では、「アートの力で地方を活性化する」ことを目標に、学生たちと日々研究やプロジェクトの実践に取り組んでいる。			
そこで得られた成果や事例を適宜紹介しながら、最新の文献・映像資料等を講読・鑑賞し、受講生と講師がそれぞれの立場を超えて自由に、そして深くディスカッションし、新たな知見を生み出すことを目的としたい。本授業自体が、まさにひとつのプロジェクトである。			
プロジェクト・マネジメントの真髄は実際に社会に出て自分で企画書を作り、仲間を募り、自らの立案したプロジェクトの実践を通して、精神と肉体とで掴み取るしかないものであろう。			
その意味でも、本学のようなビジネススクールで、受講者がそれぞれの職場での体験を背景に、知見や体験をぶつけ合うプロセスこそは、プロジェクト・マネジメントを実践的に学ぶという行為に、まさに直結するものであると確信している。			
(到達目標)			
プロジェクト・マネジャーに求められる①チームの育成スキル、②組織化のスキル、③コミュニケーションスキル、④問題解決スキル、⑤リーダーシップ、以上5つのスキル（予定）を理解し、身につけること。			
使用教材：			
・岩崎夏海『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』新潮社（新潮文庫）2015年			
・ピーター・F・ドラッカー『マネジメント[エッセンシャル版] - 基本と原則』ダイヤモンド社 2001年			
論文・ケース（事例）・資料は、モジュールごとに事前に配布します。			
※参考文献：宇田川耕一『オーケストラ指揮者の多元的知性研究―場のリーダーシップに関するメタ・フレームワークの構築を通して』大学教育出版、2011年。			

成績評価の方法：

- ・ 出席率 0%
- ・ 所感レポート 30%
- ・ 授業への参加度 40%
- ・ プレゼンテーション 30%

評価に不服のある場合は、講師に直接、あるいは不服申立書を以て教務委員長に申し出てください。

履修上の注意事項：

当授業は講師による一方的なものではなく、共に考え抜くことで新しい知見を得ることを目標にしています。事前に十分に準備の上、積極的な授業への参加を求めます。全出席を前提としますが、やむを得ない場合は授業開始前に講師に連絡して下さい。特に個別課題の発表の際は授業進行の都合上、必ず事前連絡をお願いします。

事前準備の「共通課題」は受講生全員を対象にしており、「個別課題」は輪番制により原則1人で取り組む課題です。

※なお、受講生の関心分野、所属する組織、受講人数等により授業内容や進め方を変更することもありますので、予めご了承下さい。

授業の内容及び方法

モジュール 1	オリエンテーションと自己紹介
事前準備	マネジメント論の基礎について、必要であればプレ科目「マネジメントの基礎」等を受講して理解を深めておくことが望ましい。
第 1 時 限	オリエンテーションとして講師の自己紹介、本授業の基本的な考え方・目的、成績評価基準等について説明する。
第 2 時 限	プロジェクト・マネジメントを推進するプロジェクト・マネジャーが身につけるべき5つのスキル（前述）、およびプロジェクト・マネジメントにおける「計画」「遂行」「コントロール」「終結」の各フェーズについて、その概略を解説する。
復 習	授業の所感レポート（書式・字数自由）を1週間以内に、講師及び受講生全員宛にメーリングリスト（またはLINE）に発信し共有する。

モジュール 2	1. チームの育成スキル – ベストセラー『もしドラ』から学ぶ–
事前準備	<p>共通課題：テキスト『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』（新潮文庫）の全文を熟読、同書内で紹介されているピーター・F・ドラッカー『マネジメント[エッセンシャル]基本原則』（ダイヤモンド社）の該当ページを参照し、内容を理解しておく。</p> <p>個別課題：モジュール1で割り振られた担当章について『マネジメント』の該当ページも含めその概要と、それに対する自分の意見や共有したいポイントを「A4・2枚（書式自由）」で授業前日正午まで（厳守）に講師にデータで提出（印刷は不要）。併せてPowerPoint（10スライド程度）の発表資料をデータで持参し、授業当日に10分以内でプレゼンテーションする。</p>
第 5 時 限	<p>第1章「みなみ（主人公）は『マネジメント』と出会った」</p> <p>第2章「みなみは野球部のマネジメントに取り組んだ」</p> <p>第3章「みなみはマーケティングに取り組んだ」</p> <p>第4章「みなみは専門家の通訳になろうとした」</p> <p>以上のテキスト各章について、発表者のプレゼンテーションをもとにディスカッションし「チームの育成スキル」への理解を深める。</p>
第 6 時 限	<p>第5章「みなみは人の強みを生かそうとした」</p> <p>第6章「みなみはイノベーションに取り組んだ」</p> <p>第7章「みなみは人事の問題に取り組んだ」</p> <p>第8章「みなみは真摯さとは何かを考えた」</p> <p>以上のテキスト各章について、発表者のプレゼンテーションをもとにディスカッションし「チームの育成スキル」への理解を深める。</p>
復 習	授業の所感レポート（書式・字数自由）を1週間以内に、講師及び受講生全員宛にメーリングリスト（またはLINE）に発信し共有する。

モジュール 3		2. 組織化のスキル ―組織の本音―
事前準備	<p>共通課題：『ダイヤモンドハーバードビジネスレビュー 2016 年 07 月号 [雑誌] (組織の本音)』（ダイヤモンド社）の抜粋（コピーを配布）を熟読し、内容を理解しておくこと。</p> <p>個別課題：モジュール2で割り振られた上記テキストの担当論文について、その概要と、それに対する自分の意見や共有したいポイントを「A4・2枚（書式自由）」で授業前日正午まで（厳守）に講師にデータで提出（印刷は不要）。併せて PowerPoint（10 スライド程度）の発表資料をデータで持参し、授業当日に 10 分以内でプレゼンテーションする。</p>	
第 7 時限	<p>『ダイヤモンドハーバードビジネスレビュー 2016 年 07 月号 [雑誌] (組織の本音)』より</p> <ul style="list-style-type: none"> ●【インタビュー】<アニメーション業界の常識に挑む>創造の熱量は仕組みから生まれるか ●<リーダーが必要な情報を得るために>言いにくいことを言える職場 <p>以上の論文について、発表者のプレゼンテーションをもとにディスカッションし「組織化のスキル」への理解を深める。</p>	
第 8 時限	<p>『ダイヤモンドハーバードビジネスレビュー 2016 年 07 月号 [雑誌] (組織の本音)』より</p> <ul style="list-style-type: none"> ●<過剰に求めると弊害が出る>共感するにも限度がある ●<限られた経営資源をいかに配分するか>「コラボレーション疲れ」が人を潰す <p>以上の論文について、発表者のプレゼンテーションをもとにディスカッションし「組織化のスキル」への理解を深める。</p>	
復 習	<p>授業の所感レポート（書式・字数自由）を 1 週間以内に、講師及び受講生全員宛にメーリングリスト（または LINE）に発信し共有する。</p>	

モジュール 4		3. コミュニケーションスキル ―心理学、行動科学等の応用―
事前準備	<p>共通課題：『ハーバード・ビジネス・レビュー コミュニケーション論文ベスト 10 コミュニケーションの教科書』2018 年ダイヤモンド社の抜粋（コピーを配布）を熟読し、内容を理解しておくこと。</p> <p>個別課題：モジュール3で割り振られた上記テキストの担当論文について、その概要と、それに対する自分の意見や共有したいポイントを「A4・2枚（書式自由）」で授業前日正午まで（厳守）に講師にデータで提出（印刷は不要）。併せて PowerPoint（10 スライド程度）の発表資料をデータで持参し、授業当日に 10 分以内でプレゼンテーションする。</p>	
第 9 時限	<p>『ハーバード・ビジネス・レビュー コミュニケーション論文ベスト 10 コミュニケーションの教科書』より、良い関係を築く話し方、心理学、行動科学等の内容などから受講生の関心をもとに 2 本の論文を選び、発表者のプレゼンテーションをもとにディスカッションし「コミュニケーションスキル」への理解を深める。</p>	
第 10 時限	<p>『ハーバード・ビジネス・レビュー コミュニケーション論文ベスト 10 コミュニケーションの教科書』より、コミュニケーション論相手を納得させるには何をどう話すべきか、演出法や説得術の分析などから受講生の関心をもとに 2 本の論文を選び、発表者のプレゼンテーションをもとにディスカッションし「コミュニケーションスキル」への理解を深める。</p>	
復 習	<p>授業の所感レポート（書式・字数自由）を 1 週間以内に、講師及び受講生全員宛にメーリングリスト（または LINE）に発信し共有する。</p>	

モジュール 5		【特別篇】プロジェクトにおける究極のリスク・マネジメント
事前準備	特に不要です。	
第 3 時限	<p>『プロフェッショナル 仕事の流儀 第 3 期 指揮者 大野和士の仕事 かけつぶちの向こうに喝采（かっさい）がある』を視聴し、プロジェクトにおける「究極のリスク・マネジメント」についてディスカッションする。</p> <p>世界各国の一流劇場から公演依頼が舞い込む日本人指揮者・大野和士。ベルギー王立歌劇場（モネ劇場）の音楽監督等を歴任、現在は、新国立劇場オペラ部門芸術監督、東京都交響楽団・音楽監督、カタルーニャ国立バルセロナ交響楽団・音楽監督、東京フィルハーモニー交響楽団・桂冠指揮者。</p> <p>2006 年 10 月、ドイツオペラの最高峰に挑むが、本番 3 日前、主役歌手が突然倒れる大アクシデントが発生した。責任は全て指揮者に降りかかる。その時大野がとった驚くべき決断とは（2007 年 1 月 25 日（木）NHK 総合テレビにて放送）。</p>	
第 4 時限	受講生や講師の実体験に基づく「究極のリスク・マネジメント」をお互いにプレゼンテーションすることにより、リスク・マネジメントの重要性を再認識する。	
復 習	授業の所感レポート（書式・字数自由）を 1 週間以内に、講師及び受講生全員宛にメールリスト（または LINE）に発信し共有する。	

モジュール 6		4. 問題解決スキル – 課題設定の力
事前準備	<p>共通課題：『ダイヤモンドハーバードビジネスレビュー 2018 年 2 月号 [雑誌] (課題設定の力)』の抜粋（コピーを配布します）を熟読し、内容を理解しておくこと。</p> <p>個別課題：モジュール 5 で割り振られた上記の担当論文について、その概要と、それに対する自分の意見や共有したいポイントを「A4・2 枚（書式自由）」で授業前日正午まで（厳守）に講師にデータで提出（印刷は不要）。併せて PowerPoint（10 スライド程度）の発表資料をデータで持参し、授業当日に 10 分以内でプレゼンテーションする。</p>	
第 11 時限	上記所載の野々村健一（IDEO Tokyo ディレクター）「IDEO 流問いかける力」、トーマス・ウェデル=ウェデルスボルグ（コンサルタント）「そもそも解決すべきは本当にその問題なのか」の 2 本の論文をテーマに、発表者のプレゼンテーションをもとにディスカッションし「問題解決スキル」への理解を深める。	
第 12 時限	上記所載の横山禎徳（東京大学 エグゼクティブ・マネジメント・プログラム 企画推進責任者）「ロジックツリーの限界を超えて - 課題設定は意志から始まる」、スコット・ベリナート（『ハーバード・ビジネス・レビュー』シニアエディター）「ビジュアル・コミュニケーション:データの可視化で解を導く」の 2 本の論文をテーマに、発表者のプレゼンテーションをもとにディスカッションし「問題解決スキル」への理解を深める。	
復 習	授業の所感レポート（書式・字数自由）を 1 週間以内に、講師及び受講生全員宛にメールリスト（または LINE）に発信し共有する。	

モジュール 7		5. リーダーシップ —経営学の先哲に学ぶ—
事前準備	<p>共通課題：『ハーバード・ビジネス・レビュー リーダーシップ論文ベスト 10 リーダーシップの教科書』2018年、ダイヤモンド社の抜粋（コピーを配布）を熟読し、内容を理解しておくこと。</p> <p>個別課題：モジュール6で割り振られた上記の担当論文について、その概要と、それに対する自分の意見や共有したいポイントを「A4・2枚（書式自由）」で授業前日正午まで（厳守）に講師にデータで提出（印刷は不要）。併せて PowerPoint（10スライド程度）の発表資料をデータで持参し、授業当日に10分以内でプレゼンテーションする。</p>	
第 13 時 限	<p>上記テキストに所載のジョン P. コッター（ハーバード・ビジネス・スクール名誉教授）やウォレン G. ベニス（南カリフォルニア大学 特別教授）等の論文から、受講生の関心をもとに2本を選び、発表者のプレゼンテーションをもとにディスカッションし「リーダーシップ」への理解を深める。</p>	
第 14 時 限	<p>上記テキストに所載のジム・コリンズ（『ビジョナリー・カンパニー』著者）、ダニエル・ゴールマン、ピーター F.ドラッカー、ピーター M.センゲ等の論文から、受講生の関心をもとに2本を選び、発表者のプレゼンテーションをもとにディスカッションし「リーダーシップ」への理解を深める。</p>	
復 習	<p>授業の所感レポート（書式・字数自由）を1週間以内に、講師及び受講生全員宛にメーリングリスト（またはLINE）に発信し共有する。</p>	

モジュール 8		最終プレゼンテーション大会
事前準備	<p>各自、PowerPointで新規プロジェクトのプレゼンテーション資料を作成し、データで持参する。配布資料があれば、各自で人数分用意。受講人数によってプレゼンテーションの時間配分等が変わるので、講師の指示に従うこと。</p>	
第 15 時 限	<p>本授業の総決算として、事前に与えられた課題をもとに新規プロジェクトの企画・実施案をプレゼンテーションする。</p> <p>単に事業アイデアを提示するだけでなく、「計画」「遂行」「コントロール」のフェーズを抑え、「終結」のフェーズまでを明示することが必須条件となる。</p>	
復 習	<p>授業の所感レポート（書式・字数自由）を1週間以内に、講師及び受講生全員宛にメーリングリスト（またはLINE）に発信し共有する。</p>	